【福祉心理学科】

担当教員	模擬講義		研究キーワード
	講義テーマ	講義内容	
三谷 聖也	こころとデザイン	幸せになりたいのに、なぜかうまくいかない。その原因は、あなた自身ではなく「デザイン」との不協和にあるかもしれません。「人」を無理に変えるのではなく、環境や仕組みを人に合わせ、ほんの少しデザインし直す。それだけで心は驚くほど軽くなります。心理学とデザインが交差する最前線から、幸せのヒントを探ります。	デザイン、ウェルビーイング、こころの健康
小林 万洋	なぜ人は非行や犯罪をするのだろうか	なぜ人は非行や犯罪をするのでしょうか。非行や犯罪に至る事情のほか、そこには福祉的課題、生活課題が影響していることを解説しながら、こうした課題に取り組む心理学的支援と福祉的支援について考えます。	非行・犯罪、心理学的支援、福祉的支援
佐藤 俊人	自分に似合った考え方を！	「こうしたほうがいいよ？」と言われても、なかなかそんな気持ちにはなれません。私たちはみんな自分の考えをもっていますので、その考えをお互いに押し付けても何もいいことはありません。「リンゴとミカン、どちらの方がおいしいか？」のような無意味な議論について楽しく分析してみましょう。	心の理解、親子関係、対人関係
内藤 裕子	保健室で活かす心理学	保健室にはいろいろな子どもたちがやってきます。「なんで痛いのが『おなか』なのか？」「なんで痛いのが『あたま』なのか？」仮想事例とクイズを交えながら、子どもの心と体のつながりを理解するために役立つ心身医学の考え方を紹介します。また、子どもの心を日常的に支える養護教諭に役立つ精神分析の考え方を紹介します。	心の深層、心身医学、精神分析
中村 恵子	幸せな脳の作り方	幸せな環境をコントロールするのは難しくても、幸せなときに分泌される脳内ホルモンにはたらきかける方法はあります。幸せホルモンと称されるホルモン分泌を促し、幸せを呼びこむ脳内環境をつくりましょう	脳内ホルモン、自己コントロール
吉田 綾乃	文化が違えば、世界も違って見えるわけ	異なる文化の人と接して、考え方や感じ方の違いを実感したことはありませんか。研究では、東洋人と欧米人では世界の見え方が大きく異なることが示されています。本講義では文化心理学の知見から、その違いの特徴と背景をわかりやすく解説します。	文化、自己、異文化理解
秋田 恭子	夢とは何か	フロイトは、心の構造を考えて、人の行動や言動の背景に無意識が関係していることを見出し、夢は「無意識への王道」と捉えました。今までの研究者や人々が夢をどのように理解してきたのかについて、夢とは何かを紹介します。	無意識、心理療法、精神分析
大関 信隆	人間の「見え方」の不思議	私たちは外の世界をありのままに捉えていると思っています。でも実は頭の中で様々な処理や解釈をしたうえで外界を認識しています。このような認識の特徴を「見え方」を通して理解していきます。この学びを通して、自分とは異なる外界を見ている他者への理解を深めます。	認知、発達障害
鎌田 克信	子どもの声を「きく」ために	子どもの声を「きく」とは、いったいどういうことでしょう。子どもたちは、言葉だけでなく、からだや行動で思いや願いを伝えようとしています。また、自分の操れる言葉を最大限に駆使しながら、子どもならではの表現で伝えてくれます。そういった子どもの姿・事例について考えながら、二度と訪れることのない子ども期を生きる子どもたちの尊さについて理解を深めていきましょう。	子どもの声、子ども期、発達
中村 修	人付き合いはストレス？	はじめに心理学とはどのような学問かについて簡単に触れてから、「人と関わること、関わりをもつこと」がもたらすネガティブな側面とポジティブな側面を健康心理学や社会心理学の知見を用いて考えてみます。	こころの調べ方、ストレス、ソーシャルサポート
山口 奈緒美	なくて七癖	「なくて七癖」といいますが、人間にも行動的・認知的な癖があります。実はこの癖のせいで人間関係がうまくいかなかったり、落ち込む必要のない場面で無駄に落ち込んだりしてしまうのですが、私たちはこの癖のせいだということに気付いていません。様々な心理学実験によって解明された人間の癖について考えてみましょう！	人付き合い、認知バイアス、心理学実験
清水 めぐみ	心の動きをどうとらえるか	問題にぶつかったとき私たちは、心理カウンセリングや心理療法を通じて解決の糸口を探そうとすることがあります。自分の心は自分が一番よく知っているつもりでありながら、ままならないものでもあります。「問題」の背後にある心の動きに着目し、どのような枠組みでとらえていこうとするのか、その一端を学び、心のはかり知れなさに触れてみましょう。	防衛機制、無意識、問題行動
武村 尊生	医療における心理学	医療における心理学の役割を概説し、「こころ」をどのように理解するのかを学問的視点から考えます。人の回復過程の多様性に触れながら、心理学による人の理解の枠組みを、医療現場の具体例を踏まえて整理します。	医療心理学、回復過程
朝岡 陸	日常を支える知覚のしくみ	心理学は心に関する学問であり、その入り口となるのが五感です。視覚や聴覚などの感覚は、それぞれ得意・不得意をもちつつも補い合うように相互に影響し合うことで成り立っています。日常生活の根幹を密かに支えている感覚間での相互作用を実際に体験しながら、心理学的な考え方や実験手法をお伝えします。	感覚、知覚、実験
飯嶋 亮子	からだの働きと症状	身体のつくりと働きを理解することで、症状として現れる身体の異常サインについて紹介します。また、ストレス反応としての身体症状にも着目し紹介します。	解剖生理、心身相関
内山 博之	悪いと分かっているのに、なぜ人はやってしまうのか	いじめやSNSでの問題行動は、なぜ起こるのでしょうか。この授業では、「みんなもやっていた」「冗談のつもりだった」といった“言い訳の心理”を手がかりに、司法・犯罪心理学の視点から、人が問題行動に向かう背景と防ぐためのヒントを考えます。	中和の技術、責任の分散、問題行動
柴田 理瑛	0～3歳の発達のふしぎ	皆さんは3歳未満のころの記憶がありますか。多くの人は覚えていないのではないでしょうか。しかしこの時期は、人の発達にとってとても大切な時期です。言葉や体の動き、他者との関わりなどについて発達心理学の観点からお話しします。	乳幼児、アタッチメント、言語の発達
名和 界子	人はどのようにして成熟していくのか	人はどうしたら「成熟」した心を手に入れられるのでしょうか。臨床心理学や精神分析では、「成熟」を、悩まないことや、完璧であることや、無敵であることとは考えません。自分の弱さや矛盾を理解し、他者との違いを受け入れながら、自分も他人も大事にできるようになることと考えます。心の成長について臨床心理学や精神分析の視点から紹介します。	臨床心理学、精神分析、心の成長
山本 良	セルフメンテナンスの道具箱	私たちは自分のことは自分自身が一番よく知っていると思いがちですが、自分ではなかなか気づかないことが多くあります。悩みや困りごとを解決するために、まずは自分自身について様々な視点から考えることが問題解決のきっかけになります。この授業ではワークを通して自分自身と向き合う機会を提供できればと考えています。	臨床心理学、自己理解、ストレス対処

齋藤 五大	からだの知覚と錯覚	からだの知覚や錯覚現象を体験してみましょう。すると、実験による体験を通して、ふだんは気がつかない、その背後にあるひとの「こころ」の仕組みが見えてきます。そうした科学的な営みからこころの仕組みに触れて考えてみます。	身体知覚、知覚、錯覚